事	業 * ***********************************	新湊漁業研究	会青年部	補且	 加金				担	部名	産業経済	i部
1	事 務 32 事業名	(海面漁業振興							· 当 部	課名		
		,		/- :- -	1/2 7 F				署	電話		
事			平成 8			塻		-		会計		***************************************
総	施策の大綱		で活気あ			* /			算	款	農林水産	
合	政策名(章)				生かしたまちつ) (I)			科目	項	水産業費	-
計画	施策名(節)		あふれる							目	水産業振	: 興費
	実施計画掲載	無	頁 個別	計画								
怋	拠法令·要綱等											
事業	対象 交付先	新湊漁業協同組	合青年部									
目的	意補助目的	地域漁業の振興	育成									
事業内容	手 主な活動	補助金を交付す (新湊漁協青年部 1.漁業技術の研 2.漁場環境保全 3.後継者育成及 4.他団体等との	所湊漁業協同組合青年部が行なう地域における活動、漁業技術研究の導入及び後継者育成に対し 制助金を交付する。 新湊漁協青年部規約:事業) .漁業技術の研究 .漁場環境保全に係わる活動 .後継者育成及び従事者確保のための活動 .他団体等との交流、情報の収集、交換活動 .魚価対策のPR活動									
	類 型 区 分	団体運営費	補助	Ę	事業費補助			施設等	整備責	資補助	政策	的補助
*-1.	類 望 C 刀	格差是正補	助	7	可子補給			その他	()
補助		補助区分		ŗ	内容(基準単個	・補	助率	等)			上	限額
金	補助内容	<u>定額補助</u>								243 千円		
	1111 23 13 1	定率補助									上限額は、	補助区分が「定
		その他								î	額補助」、「そ	たの他」のみ記載
	施設名						管 Đ	里形	態			
施	施 設 名 						指定	管理者	名			
設管	構造・階数						指定	管理期間	間			
理	建築年度		改修年	F 度			類似	施設状況	兄			
運営	耐震の有無		延床面	積			民間	施設状況	兄			
宫	設 備・規 模											
	総事業費		財源内		国庫支出金	県	支出:	金	市債		その他	一般財源
		TI COLOR	(7	円)	1 -0-0	∕⊤≓					₩#***	
施		平成21年度			平成22	牛店	ž.				平成23年	-
設	市在											
設等整備	整備											
備	内											
	容											
		 平成7年9月29日	宣公 → (至 氏)	差 海·	協善在部组约)						
その	性 句 审 语 答	「会員相互の連	絡を密に	し、協	協同組合運動σ)実	践活重	かを通じて	て、積札	亟的に	新湊漁業	協同組合に協
の他	特記事項等	力するとともに、え	漁村の中村	核とし	ての教養を高	め会	会員の	親睦を図	図り、新	湊地	区の漁業を	後展に寄与する
		ことを目的とする	۱ ،									

補助金事業

事業	± 75	新湊漁業研究会青年部補助金	担	部名	産業経済部
	事務事業名		部	課名	農林水産課
132	7 K	(海面漁業振興費)	署	電話	82 - 1959

	指標名		H21年度		H22年度		H23年度	
			実績	目標	実績	達成率	目標	
成	利用者数 設定できる場合 (新湊漁業協同組合青年部員)	人	70	80	82	102.5	82	
成果指標								
標								

		事業費	平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
		直接事業費	243 千円	243 千円	0.0	243 千円
	事業	(補助金交付件数)	(1件)	(1件)	0.0	(1件)
	業	人 件 費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
事	コス	退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
事業費	۲					
費		事業コスト計	477 千円	477 千円	0.0	477 千円
人	日才	国 県 支 出 金	千円	千円		千円
件	財源					
費	内	そ の 他	千円	千円		千円
	訳	一 般 財 源	477 千円	477 千円	0.0	477 千円
	当	該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
	利	用者1人当たりコスト	6.81 千円	5.82 千円	14.6	
		うち一般財源ベース分	6.81 千円	5.82 千円	14.6	

評価項目	点数	説明
妥当性	4	地域における活動、漁業技術研究の導入及び後継者育成を図る。
有効性	4	地域漁業の振興と育成を行なう。
効率性	3	漁業技術の研究導入及び後継者育成に効果が期待される。

評価結果 月 現行どおり補助することが適当

評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)

全国的に漁業従事者の高齢化及び減少が進む中、新湊 漁業協同組合青年部の部員は、増加傾向にある。このこと からみても、地域漁業の振興と後継者育成に効果があった といえる。

評価結果
(2次)

事	業 ま な	魚食普及推過	車業補助 金			担部	名 産業経済部
	事 粉						名 農林水産課
	34	(芦川温泉派	•			署電	話 82 - 1959
事	業期間			F度 終 了 年 度	平成 24 年度	J'	計一般会計
総	施策の大綱		気で活気ある			算	
合	政策名(章)			原を生かしたまちづくり		科目	
計画	施策名(節)		気あふれる漁				水産業振興費
	実施計画掲載	1	頁個別計	十四			
根	拠法令·要綱等 						
事業	対象 交付 先	富山県おさかな	は普及協会				
目的	意補助目的			アップと本県産水産物 双り組みについて理解:		るため	、富山湾で獲れる魚や水産
事業内容	手 主な活動			海のおさかな読本~」 ,200部を配布する。	を作成し、富山県	果内小⁵	学校185校の5年生及び指
	類 型 区 分	団体運営	費補助	事業費補助	施設等整	備費補	助 政策的補助
**	規 望 区 刀	格差是正符	補助	利子補給	その他()
補助		補助区分		内容(基準単価·補	助率等)		上限額
金	補助内容	定額補助 定率補助 その他	定率補助 漁港施設(港種等)及び水揚げ量等によるもの				130 千円
		(C 0)					額補助」、「その他」のみ記載
**-	施設名				管理形態		
施設	+# `/+				指定管理者名		
設管	構造・階数		15 版 年	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	指定管理期間		
理	建築年度		改修年 延床面		類似施設状況 民間施設状況		
運営	耐震の有無			付	氏间旭設扒冼		
	設 備・規 樽						
	総事業費		財源内 (千月		支出金 市	持	その他一般財源
٠,٠		平成21年度		平成22年度			平成23年度
施設等整備	整備内容						
2							
その他	特記事項等						

事業	± 70	魚食普及推進事業補助金	担	部名	産業経済部
3 717	事。務		」≡	锂名	農林水産課
404	事業名		部		
134	7 X I	(海囬馮葉振興賃)	署	電話	82 - 1959

世 堙 夕			指標名 単位 H21年度 H22年度				H23年度	
	1日 1宗 1口	丰山	実績	目標	実績	達成率	目標	
成	利用者数 設定できる場合 (市内小学校5年生の人数)	人	991	931	925	99.4	951	
成果指標						~~~		
伝								

		事業費	平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
		直接事業費	255 千円	200 千円	21.6	130 千円
	事業	(補助金交付件数)	(1件)	(1件)	0.0	(1件)
	業コ	人 件 費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
事	コス	退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
事業費	۲					
費		事業コスト計	489 千円	434 千円	11.2	364 千円
人	財	国県支出金	千円	千円		千円
件	源					
費	内	そ の 他	千円	千円		千円
	訳	一 般 財 源	489 千円	434 千円	11.2	364 千円
	当	該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
	利	用者1人当たりコスト	0.49 千円	0.47 千円	4.9	
		うち一般財源ベース分	0.49 千円	0.47 千円	4.9	

評価項目	点数	説明				
妥当性	1	富山県の水産業のイメージアップ				
有効性	生 1 富山県産の水産物の消費拡大(富山県内の小学校5年生に、富山湾で獲れる魚や水産業の仕組 環境への取り組みについて理解する。)					
効率性	3	富山湾で獲れる魚等について理解してもらうために、「ふるさと富山湾 ~ ふしぎの海のおさかな読本 ~ 」を作成し、県内小学校に配付する。				

評価結果 (1次)	С	補助基準の見直しが必要						
評	評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)							
	TTIMI和末で組みただり 及のガリ (以合い)							
平成24年	度予算	算から廃止						

評価結果 (2次)
評価委員会のコメント

事	事業事務			黎	漁業近代化資金利子補給補助金 **					担 当 部	部名	産業経済部		
1	35	事	業	名	····· (海面漁業振り	 日春)					部	課名	農林水産記	
			#0	BB	•		· /= ==	14 7 F	曲		署	電話	82 - 195	9
事	業		期	間				終了年		-	予	会計	一般会計	W ##
総			の大	***************************************	第 3 部 元気で活気あふれるまち						算 53	款	農林水産業	美賀
合品			3(1		第 4 章 豊かな水産資源を生かしたまちづくり						科目	項	水産業費	
計画			3(f		- 第 I 即 活気の5V化る漁業の振興							目	水産業振り	単 質
			画掲		無			<u> </u>						
化:		(令)	要網	明寺	射水市漁業近代	.1七頁玉和	可于拥剂	6金父刊 安納						
事業	対象	交	付	先	市内に住所又は	漁船のま	Eたる根	製拠地を有する	者で漁業	美を営むる	当「漁	業者」		
目 的 —	意図	補	助目	的	漁業経営の安定	漁業経営の安定化を図るため								
事業内容	手段	主	な活	動	漁業近代化資金	業近代化資金融通法に規定する漁業近代化資金に係る利子補給金を交付する								
	WT		_	,,	団体運営費	補助	事	業費補助		施設等	整備뤃	責補助	政策	的補助
	類	型	X	分	格差是正補			子補給		その他			1 1 1 1 1 1 1 1)
補					補助区分		内	容(基準単価	i·補助率	等)	<u>`</u>		上图	很額
助金					定額補助 利子補給率は1.5パーセント以内とし、利子補給								千円	
312	補助内容			谷	定率補助 ただし、災害等に起因する被害の復旧のための借						上7日安百1十 2	補助区分が「定		
					その他	の利子補	人占 寸 輔給期間	間は、その都度	定定める。	10212020.	ハロハ	客		の他」のみ記載
									管 :	理形態	Ę.			
施	施	Ì	殳	名			指定管理者名							
設管	構	诰	· 階	数					****	管理期間	_			
IHI			年			改修:	 年 度			施設状況	_			
连運営			の有			延床	面積			施設状況				
営			・規											
	445	事	業	弗		財源	内訳	国庫支出金	県支出	金	市債		その他	一般財源
	和心		未			(-	千円)							
施	-				平成21年度			平成22:	年度				平成23年	芰
施設等整備														
等	整備内													
整	1佣													
T/FFI	容													
そ														
の ##	特	記	事項	等	災害資金等の利]息にも活	用され	ている。						
他														
								(車両へ結び						

事業	事務	漁業近代化資金利子補給補助金	担当	部名	産業経済部
135	事業名	 (海面漁業振興費)	部業	雷話	長M 小座詸 82 - 1959
135			署	電話	82 - 1959

	指標名	単位	H21年度 実績	目標	H22年度 実績	達成率	H23年度 目標	
成	利用者数 設定できる場合 (受給者数)	人	4	3	3	100.0	4	
成果指標						~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		
標								

		事業費	平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
		直接事業費	238 千円	148 千円	37.8	184 千円
	事業	(補助金交付件数)	(4件)	(3件)	25.0	(4件)
	業コ	人 件 費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
事	コス	退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
事業費	۲					
費		事業コスト計	472 千円	382 千円	19.1	418 千円
人	財	国 県 支 出 金	千円	千円		千円
件	源					
費	内	そ の 他	千円	千円		千円
	訳	一 般 財 源	472 千円	382 千円	19.1	418 千円
	当	該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
	利	用者1人当たりコスト	118.00 千円	127.33 千円	7.9	
		うち一般財源ベース分	118.00 千円	127.33 千円	7.9	

評価項目	点数	説明							
妥当性	4 漁業経営者の負担を軽減することにより、漁業経営の安定を図る。								
有効性	4	漁業経営者が資金調達において、利子補給を受けることができることで、当市で独立して漁師をやるメリットがあり、安心で安全に漁を営むことができる。							
効率性 4 補助金のすべてが利子補給の一部となる。									

評価結果	A	現行どおり補助することが適当								
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)										
漁業経営	の安定	E化を図るために必要な補助事業である。								

評価結果 (2次)				
	評価委員	会のコメン	 	

事	業	事務	近畿大学水産研究所富山実験場研究支援補助金	担当	部名						
1	36	事業名	(海面漁業振興費)	当部	課名						
	業	期間	開始年度 平成14年度 終了年度	署	電話会計						
事		<u>−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−−</u>	 	予	款	農林水産業費					
総合		を 名(章)	第 4 章 豊かな水産資源を生かしたまちづくり	算 科	項	水産業費					
合計		を ロ(草) 長 名(節)	第 1 節 活気あふれる漁業の振興	目	目	水産業振興費					
圖		を 石(即) 返計画掲載	無 頁 個別計画		H	小性未派祭具					
相		。 令·要綱等	無								
1LX		4 女訓寸									
事業	対象	交付先	近畿大学水産研究所富山実験場								
目的	意図	補助目的	水産養殖産業の振興								
事業内容	手段	主な活動	海洋の半深層水を活用したアワビ陸上養殖技術の開発 ・飼育水槽における収容密度を高める技術開発 ・飼育水の濁りによる親貝の成熟状態の悪化防止 ・県内外への試験販売と昆布〆の製品化								
	**	피 57 /	団体運営費補助事業費補助施設等整	備費	補助	政策的補助					
	突 貝	型区分	格差是正補助 利子補給 その他(そ	开究	費補	助)					
補助			補助区分 内容(基準単価・補助率等)			上限額					
金	2击	助内容	定額補助			1,500 千円					
	i Hi	נין נע	定率補助 人件費を除〈経費相当分及び備品等 そ の 他		3	上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載					
	٠.	±0 65	管 理 形 態								
施	施	設 名	指定管理者名								
設	構i	造・階 数	指定管理期間								
設管理	建	築 年 度	改 修 年 度 類似施設状況								
運	耐息	震の有無	延床面積 民間施設状況								
営	設(備・規 模									
	総	事業費	財源内訳 国庫支出金 県支出金 市 (千円)	債		その他 一般財源					
			平成21年度 平成22年度			 平成23年度					
施			1,以21十段			1 // // // // // // // // // // // // //					
施設等整備	慗										
整	整備										
備	内容										
そ											
の	特言	記事項等									
他											

補助金事業

事業	事 務	近畿大学水産研究所富山実験場研究支援補助金	担当	部名	産業経済部
	事業名		部	課名	農林水産課
136	7 * 1	(海面漁業振典費)	署	電話	82 - 1959

	指標名	単位	H21年度		H22年度	\+ <u>-</u> \-	H23年度	
			実績	目標	実績	達成率	目標	
成	利用者数 設定できる場合 ()	人						
成果指標	保有貝数	ケ	10,000	10,000	10,000	100.0	20,000	
標								

		事業費	平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
		直接事業費	1,500 千円	1,500 千円	0.0	1,500 千円
	事業	(補助金交付件数)	(1件)	(1件)	0.0	(1件)
	業	人 件 費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
事	コス	退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
事業費	۲					
費		事業コスト計	1,734 千円	1,734 千円	0.0	1,734 千円
人	財	国 県 支 出 金	千円	千円		千円
件	財源					
費	内	そ の 他	千円	千円		千円
	訳	一 般 財 源	1,734 千円	1,734 千円	0.0	1,734 千円
	当	該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
	利	用者1人当たりコスト	-	-		
		うち一般財源ベース分	_	-		

評価項目	点数	説明
妥当性	4	本事業は、養殖漁業への貢献が見込まれる。
有効性	4	本事業は、養殖販売の販路拡大に効果が期待される。
効率性	4	本事業は、効率的な養殖システムの開発に効果が期待される。

評価結果 (1次) 現行どおり補助することが適当 評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)

本事業は、生産される養殖エゾアワビに付加価値をつけ、 射水・近大・堀岡ブランドの確立を目指している。 評価結果 (2次)

事	業	事	務	近畿大学堀岡	トラフグPR 専	 【業補助金		担 当 部	部名	産業経済部		
1	37	事業		(海面漁業振	理費)			部	課名電話	農林水産部 82-1959		
事	· 業	<u></u> ● 期	間	開始年度	•	と		署	会計	一般会計	9	
		<u>─────</u> 策のナ			_ 十ル 20 千月 記で活気あふれ			—— 予	款	農林水産業	坐弗	
総		策名(:				<u>いるよう</u> 生生かしたまちづくり		算 科	項	水産業費	₹貝	
合計		^東 石() 策 名()			いな小座貝/ぷる 記あふれる漁業				目	小座乗員 水産業振興	11 弗	
画		双 石(施計画技	,		真 個別計画				日	小庄未派界	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
根		· 令·要約		日 23	其 旧加引	4						
事業	対象	交 付	付 先 堀岡養殖漁業協同組合									
業目的	意図	補助目	的	射水の新ブラン	ドの確立と養殖	直産業の振興						
事業内容	手段	主な活	舌動	2.市民参加の	射水市内のイベント参加し、トラフグ鍋の無料配布 市民参加の試食会、新商品の企画開発 県内外へのPRチラシ作成							
	米古	型区	\wedge	団体運営費	資補助	事業費補助	施設等	等整備 費	補助	政策的	勺補助	
	洖	坐区	״מ	格差是正確	助	利子補給	その作	也(新ブ	ランド	のPR支援)	
補助				補助区分	Ţ	内容(基準単価·補	助率等)			上限	見額	
金	補	助内	玆	定額補助							300 千円	
	邢	助内	台	定率補助	県内外へのP	R活動に必要な経費	相当分				朝助区分が「定	
				その他						額補助」、「その他」のみ記載		
							管理形	熊				
施	施	設	名									
設管	構	造・階	数				指定管理期	間				
管理		築年			改修年月	复	類似施設状	況				
理運営	耐	震の有	無		延床面和	真	民間施設状	況				
営	設	備・規	模									
							+山ム	士/丰		スの仏	加井北西	
	総	事 業	費		財源内訳 (千円)		支出金	市債		その他	一般財源	
				平成21年度		平成22年度				平成23年度	₹ Ž	
施設等整備												
等	整											
整	整備内容											
1佣	容											
そ												
の	特	記事項	等	農業産業まつり	に参加して、近	[大堀岡トラフグ鍋を	無料で提供	している	5。(約	200人前)		
他												

補助金事業

事業	事務	近畿大学堀岡トラフグPR事業補助金	担当	部名	産業経済部
	事業名		部部	課名	農林水産課
137	7 * 1	(海面漁業振典費)	署	電話	82 - 1959

	指標名	単位	H21年度		H22年度		H23年度	
	1日 1示 1口	丰山	実績	目標	実績	達成率	目標	
成	利用者数 設定できる場合	人						
果指	近大堀岡トラフグ販売尾数 (H21小ぶりのトラフグを出荷したため)	尾	8,420	4,000	3,659	91.5	4,000	
標								

		事業費	平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
		直接事業費	300 千円	300 千円	0.0	300 千円
	事	(補助金交付件数)	(1件)	(1件)	0.0	(1件)
	業コ	人 件 費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
事	7	退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
業費	۲					
費		事業コスト計	534 千円	534 千円	0.0	534 千円
人	財	国 県 支 出 金	千円	千円		千円
件	源					
費	内	そ の 他	千円	千円		千円
	訳	一 般 財 源	534 千円	534 千円	0.0	534 千円
	当	該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
	利	用者1人当たりコスト	-	-		
		うち一般財源ベース分	-	-		

評価項目	点数	説明							
妥当性	4	射水の新プランドとして県内外にPRすることにより、養殖産業の振興を図る。							
有効性	4	大堀岡トラフフグPRを行なうことにより、持続性のある新たな産業と雇用の創出を図る。							
効率性	4	水産資源の需要拡大と安定供給を図る。							

評価結果 現行どおり補助することが適当 評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)

特産水産物の販路拡大、及び射水新ブランドの確立に向け て必要な補助事業である。

	並価禾品
(2次)	
平価結果	

ソフト事業

事	業	事務	漁港及び漁港内公園の維持管	理費		担部記録			
1	38	事業名	(新湊漁港管理費)			部課名			
事	3	│	開始年度 平成9年度 終	タフケー		署 電記			
					-	子会計	***************************************		
総		策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるま			算 款 科 項	農林水産業費		
合品		策名(章)	第 4 章 豊かな水産資源を生か			—	水産業費		
計画		策名(節)	第 1 節 活気あふれる漁業の振	型		日	水産業振興費		
		施計画掲載	無 頁 個別計画						
根	拠法	令·要綱等	1.新湊漁港内公園の清掃業務等	実施規程、2.新	「湊漁港内公園	の清掃業	務委託確認書		
事業	対象	誰を・何を	新湊漁港内公園及び施設を利用す	る地域住民等					
音的	意図	どのような状態に	市民の福祉向上を図る						
事業内容	手段	どのような 方 法 で	1.新湊漁港内公園の清掃業務等(再委託) 2.新湊漁港施設の清掃及び同施設利用監視並びに漁港内道路状況情報収集業務(再委託)						
	類	型区分							
補				· (基準単価·補属	 助家等)		 上限額		
助金	補	助内容	(大型) (大型) (大型) (大型) (大型) (大型) (大型) (大型)		그 가지 다꾸				
	16	45 6			管理形態	,			
施	施	設 名			指定管理者名				
設	構	造·階数			指定管理期間				
設管理		築 年 度	改修年度		類似施設状況				
		震の有無	延床面積		民間施設状況		<u> </u>		
運営			~ # # #		201-38-82 1778				
	設	備·規模							
	総	事業費	財源内訳 国(千円)	庫支出金県	市 金出支	債	その他 一般財源		
			平成21年度	平成22年度			平成23年度		
施設等整備	整備内容								
その他	特	記事項等							

ソフト事業

事業	事 務	·····································	部名	産業経済部	
	事業名		部	課名	農林水産課
138	7 * 1	(新湊漁港管理費)	署	電話	82 - 1959

	指標名	単位	H21年度		H22年度		H23年度	H 29	年度
	1月 15 15	半世	実績	目標	実績	達成率	目標	最終目標	達成率
成	利用者数 設定できる場合	人							
果指	トイレ使用実績(下水道使用料)	m³	634	665	548	82.4	575	605	
標									
活動	業務委託件数(再委託分)	件	12	12	11	91.7	11		
指									
標									

			事	業	費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
		直	接	事	業	費	12,533 千円	13,174 千円	5.1	13,848 千円
	事業									
	業コ	人		件		費	340 千円	340 千円	0.0	340 千円
事	コス	退職	线手当	引当	金相	当額	50 千円	50 千円	0.0	50 千円
事業費	+									
費		事	業	J ,	スト	計	12,923 千円	13,564 千円	5.0	14,238 千円
人	財	国	県	支	出	金	7,268 千円	7,243 千円	0.3	7,242 千円
件	源									
費	内	そ		の		他	千円	千円		千円
	訳	_	般		財	源	5,655 千円	6,321 千円	11.8	6,996 千円
	当	該引	務	従 事	職員	数	0.05 人	0.05 人	0.0	0.05 人
	利	用者	1人	当た	コリコ	スト	-	-		
		うち	一般	財源	ベー	ス分	-	-		

評価項目	点数	説 明						
必要性	4	市民の憩いの場として定着している。						
有効性	4	川用者が施設を快適で安全に利用できるように努める。						
達成度	4	市民の福祉向上につながる施設である。						
効率性	4	地域住民等に幅広〈利用されている。						

評価結果 (1次) 現行(計画) どおり事業を進めることが適当

評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)

立山連峰・富山湾の展望、海釣り、地域住民のウォーキング等の場として,様々な観点から有効活用されている。

評価結果 (2次)